

実践の見える化と支援の根拠に資する 「生活支援記録法 (F-SOAIP)」研修会

在宅系
介護支援専門員
など

～支援経過記録を再考してみませんか？～

施設系
介護支援専門員
など

介護支援専門員は、法的原則を押さえながら、利用者の支援に係ることについて記録を行い、モニタリング、再アセスメントにて実践評価を行います。

一方、「何をどのように書けば良いのか分からない」、「記録の書き方を教わったことがない」、「記録は時間がかかって大変」・・・と思われる方も多いのではないのでしょうか？

本研修会では、ケアマネジメントの質の向上を目的として、経過記録の意義や生活支援記録法のポイントについて講義と演習を通して学びます。

開催
日時

令和元年9月15日(日)

第1組・午前▷在宅系
居宅・包括等の介護支援専門員など

▶9:30～12:30 受付 9:00～

第2組・午後▷施設系
介護保険施設等の介護支援専門員など

▶13:30～16:30 受付13:00～

会場

大分県社会福祉介護研修センター
3階大ホール
(大分市明野東3-4-1)

講師

公立大学法人 埼玉県立大学
保健医療福祉学部
准教授

寫末 憲子 氏

講師紹介

- ・熊本大学教育学部 卒業
- ・日本社会事業大学大学院社会福祉学研究所
博士前期課程修了
- ・大学病院、医療福祉系専門学校などを経て現職

定 員 午前・午後ともに
100名 (予定)

申込締切 8月17日(土)
FAX申込み

*受付後、振込用紙を郵送

受講料 会員 ▶1,000円
非会員 ▶3,000円

※「研修受講証明書」交付研修

「ケアプランチェック対策」
「実地指導対策」といった
内容ではなく、援助者の
支援の質の向上を目的と
した研修会です。



生活支援記録法とは・・・ <http://seikatsu.care/>

生活支援記録法は、多職種協働によるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、生活支援の観点から、当事者ニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、F-SOAIPの項目で可視化し、PDCAサイクルに多面的効果を生む、リフレクティブな経過記録の方法です。(*生活支援記録法HPより転記)

生活支援記録法では、支援経過を記録する際、ニーズ・問題の着目点(F)、主観的情報:利用者の言葉(S)、客観的情報:観察や支援で得た情報(O)、気づき・判断・見立て(A)、働きかけ(I)、計画(P)の6項目に分けて記述する方法です。

～利用者の自立(自律)支援と介護支援専門員の自律支援～

特定非営利活動法人

大分県介護支援専門員協会

OCMA Oita Care Manager Association

<一般社団法人 日本介護支援専門員協会 大分県支部>

〒870-1133

大分県大分市宮崎1367-1

アルファコート宮崎215号 (旧 甲斐ビル)

TEL:097-504-7500 FAX:097-504-7501

E-Mail : ocma@fuga.ocn.ne.jp

<http://oita-care-manager.com/>





F A X送信先：097-504-7501

大分県介護支援専門員協会 宛



実践の見える化と支援の根拠に資する
「生活支援記録法(F-SOAIP)」研修会
～支援経過記録を再考してみませんか？～

令和元年9月15日(日) 大分県社会福祉介護研修センター 3階大ホール
第1組・在宅系▷9:30～12:30 第2組・施設系▷13:30～16:30

受講申込書

申込みはお早めに！

(ふりがな) 受講申込者のうち代表者		()	
所属機関			
住 所 (決定通知・払込用紙郵送先)		〒 -	送付先 自宅・所属機関
連 絡 先	TEL	() -	
	PC E-mail (会員の方)	@	

No.	※受講証明書交付のため必ず丁寧に記入してください		どちらかに○	会員区分 ※該当に○
	受講申込者氏名	ふりがな		
1			第1組・午前▷在宅系 第2組・午後▷施設系	会 員 非会員
2			第1組・午前▷在宅系 第2組・午後▷施設系	会 員 非会員
3			第1組・午前▷在宅系 第2組・午後▷施設系	会 員 非会員

※会員区分の会員とは「大分県介護支援専門員協会」会員です。

※申込締切:令和元年8月17日(土)※締切前であっても、定員になり次第、受付を終了します。

※受講決定者には「決定通知書」と「振込用紙」を送付します。

※定員に達しご参加いただけない場合には、ご連絡します。

※自然災害等により当協会が研修開催不可能と判断した場合は、日程を変更する場合があります。

※会員の方は、PC E-mail 記入にご協力ください。

特定非営利活動法人 大分県介護支援専門員協会

TEL : 097-504-7500

HP

生活支援記録法

F - S O A I P

生活支援記録法の定義

多職種協働によるミクロ・メゾ・マクロレベルの実践過程において、生活支援の観点から、当事者のニーズや観察、支援の根拠、働きかけと当事者の反応等を、F-SOAIPの項目で可視化し、PDCAサイクルに多面的効果を生む、リフレクティブな経過記録の方法である。

Focus	焦 点	ニーズや気がかりなど ※介護サービス計画書の課題以外も可、その場面を簡潔に表現する
Subjective Data	主観的データ	利用者の言葉 ※主な家族の言葉は、「S(続柄)」とする
Objective Data	客観的データ	観察や支援により得られた情報・家族・他職種等から得られた情報
Assessment	アセスメント	気づき、判断など
Intervention	介 入	記録者本人による声掛けや実施した内容
Plan	計 画	当面の対応予定 ※F と P を追うことにより、モニタリングに活用可能

	POS(問題指向型記録) SOAP	生活支援記録法 F/SOAIP	フォーカスチャート F-DAR
焦 点	#(問題ごとに記録する)	F(問題にとらわれない)	F(問題点にとらわれない)
データ	S (Subjective Data) と O (Objective Data) を区別	S (Subjective Data) と O (Objective Data) を区別	D を用い、主観的データ客観的データの区別せずに記録
アセスメント	A (Assessment)	A (Assessment)	なし
介 入	なし	I (Intervention)	A (Action)
計 画	P (Plan)	P (Plan)	なし
結 果	なし	S または O に記録	R (Response)

叙述形式による記録と比較

- 例えば、多忙な中でいつも無言で入浴を拒否していた利用者が、声かけの工夫をした結果、笑顔でスムーズに入浴できた場面を、苦労して支援経過記録に書いたことはありませんか。そのような支援経過記録が書きやすく、かつチームにおいて共有しやすくなり、記録や介護現場全体の課題解決にも貢献できる記録法です。
- 日々のケアを通じた利用者の状態変化や家族からの情報などについて時系列で記録する方法には、叙述形式と項目形式があります。

叙述形式による記録		項目形式による記録	
日付	支援経過	日付	支援経過
	「朝から何となく身体がだるい 夜も寝苦しかった」と言われる 食欲は普通だが表情が乏しい 風邪をひいたのかもしれないが 判断できない 体温は36.0℃でいつもと変わらない。 車いすでの買い物は、本人も乗り気ではなく中止とした 主治医に診察してもらった方が よいのではないかと勧めた		S : 朝から何となく身体がだるい 夜も寝苦しかった O : 食欲は普通だが表情が乏しい 体温36.0℃ A : 風邪をひいたのかもしれない が判断できない 体温はいつもと変わらない I : ①車いすでの買い物の意向を 確認したところ、本人は乗り 気ではなく中止とした ②主治医の診察を勧めた P : サービス提供責任者に報告 する